

第88回

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもら
うこのコーナー。前回のスゴイ人、小川原加津江
さんにご紹介いただいたこの方は「ボランティア
でみんなが感動して喜ぶ時間を提供しているス
ゴイ人」とのこと。

【今回のスゴイ人】 オカリナ愛好家

有村まり子さん



オカリナは「ソプラノ管」「アルト管」「バス管」と音の高さにより分けられる。さらにそれぞれ「C管」「F管」「G管」の3種類に分かれる。

今回は、末吉町にお住まいで、オカリナの演奏をボランティアで行っている有村まり子さんに話を伺ってきました。

中学校時代はブラスバンドに入るなど音楽が好きだったという有村さん。50代の頃に市の総合大学のオカリナ教室に参加してみると、癒される素朴な音色にはまっていました。

「オカリナは息を吹けば誰でもできる楽器。だけど単純なだけに奥深い楽器でもあります」

高音から低音への指使いが難しく、良い音が出たときに奥深さを感じるそう。母の介護のかたわら自分なりにオカリナを楽しんでいました。

人前で演奏するようになったのは60代から。またフルート奏者の友人と出会い、デュオで活動も。

「依頼があれば学校・福祉の現場・高齢者の通いの場・教会などさまざまな場所に出向いて演奏しています」

自宅には約80冊の楽譜集があり、レパートリーは童謡・歌謡曲・クラシック・演歌など幅広い。聴き手の年齢や季節によって曲を選んでいきます。

歌のメロディーを演奏するときは、歌うように吹くことをモットーとしています。



連絡先
電話 090-5723-4618

「曲はその情景を想像してもらえたら嬉しいです」

さらに活動の幅を広げたのは、絵本とオカリナのコラボ。絵本の読み聞かせグループから末吉町の民話に効果音や演奏を入れる依頼を受けて、共同で作品を作りました。

「読み聞かせに音を入れることで、大人も子どもも引き込まれて、物語を深く感じてもらえます」

これからも絵本とのコラボに力を入れていきたいそう。

現在はオカリナ同好会の仲間と楽しく活動している有村さん。

「癒しの音色を生演奏でお届けして、喜んでもらえたら大変幸せです」と話してくれました。

